園長通信～こころ～ №１９

桃源郷

2024.5.1

幼稚園児が、外に出かけることがある。一緒についていく。４月から５月にかけては、桜、桃、梨、りんごと、途切れることなく、きれいなかわいらしい花々が咲いていく。見事な赤と白のコントラストである。

以前、梁川まで通っていたときがある。４号線を北上し、桑折町のあたりで右に入る。その道は、畑の中を通っていた。４月は、それはそれは見事だった。桜、桃、りんごと、毎朝楽しませていただいた。この一帯は、有名な桃の産地である。ここは、まるで桃源郷だと思った。後で知った。この道には名前があった。「桑折ピーチライン」だった。かっこ書きもあった。（桑折桃源郷）とあった。

幼稚園の周辺も桃源郷である。いや、園児たちと歩いていると、桃源郷に思えてくる。園児たちには、不思議な力がある。畑で作業をする方、家の庭に出ている方など、みんな笑顔である。そして、必ず声をかけてくれる。園児たちには、人を笑顔にする力がある。

私はというと、スマホを持ちながら、園児たちの様子を写真に収めている。何気ない自然な表情をとらえる努力をしている。だんだんと慣れてきた。中には、スマホを向けると、条件反射的に笑顔でピースをしてくれる子どももいる。収めた写真は、ブログにアップする。これが、毎日の楽しいルーティンとなってきた。

写真を撮りながら、勉強していることがある。担任の先生が、子どもたちに、どんなことを話しているのか、興味をもちながら聞かせてもらっている。バスガイドさんとは言わないが、次から次へと、優しくわかりやすく、子どもたちに話しかける。「みんな、藤の花が咲いているよ」「これは何の花かな」「きれいだね。タブレットで写真を撮ろうか」「梨の摘果と言うんだよ」「この車で消毒をするんだよ」「みんな、覚えてる。去年来たよね」聞いていると、なるほどとなる。桃源郷には、この担任の先生が必要である。先生の存在は大きい。

桃源郷とは、別世界、ユートピアのことである。確かに、私にとっては別世界である。桑折ピーチラインも幼稚園のまわりも桃源郷である。だが、その味わいが違う。幼稚園のまわりは、園児たちと先生の存在があってこその桃源郷である。

梁川に通っていたときは、こんなきれいな桃源郷を、もう見ることはないだろうと思っていた。ところが、数年が経過し、再び違う桃源郷に来た。毎年、桜や果樹の花々を愛でることができるのは、幸せなことである。これからも、桃源郷の園児たちと先生を見守っていきたい。